

ミニソフトボールのルール

1 - 1 競技場の規格

- (1) 塁間は12 m (体育館内) ~ 14 m (グラウンドの場合)
- (2) 投手板は、ホームプレートから8.00 mの距離で、その中心から半径 1.5mのピッチャーズサークルを描く。(ティーボール形式の場合は不必要)
- (3) 一塁ベースは「ダブルベース」を使用する。
※ 「ダブルベース」とは、危険防止のため、一塁ベースのファウル地域にもう1個オレンジ色ベースを置いたもので、「打撃を終えて一塁に向かう走者が踏まなければならないベースを言う。(一塁を走り抜けるような内野の打球の時。長打のときは本来の、内側にある白いベースを踏めばよい。)
- (4) 二塁ベースは、本塁ベースの端から17 mの所に置く。
- (5) 本塁ベースの後方約1 mの所にバッティングティーを置く。(ミニソフトボール方式の試合の場合は不要)
- (6) 打者席は、たて1.20 m×よこ1.00 mの長方形を描く。
- (7) 捕手席は、本塁の端から後方3 mの地点を中心に、半径1 mの円を描く(館内略)

2 - 1 チーム編成

11名以上で競技する。(男女混合、10名以下でも競技できる) 守備者は、投手・捕手・一塁手・二塁手・三塁手・右遊撃手・左遊撃手及び外野手4名を標準とする。

2 - 2 守備位置

捕手以外のプレイヤーは、フェア地域のどこを守ってもよい。

3 - 1 用具

- (1) プレイヤーは、試合・練習を問わず、運動靴を使用しなければならない。
- (2) ボールは、柔らかいボールを使用する。
- (3) グラブやヘルメットを使用してもよい。
- (4) バットはプラスチック製等の安全な物を使用する。
 - ① グリップの部分は、滑らないようにゴム製とする。
 - ② グリップエンドには滑らないように大きめのゴムを挿入する。
- (5) 『ティー』とは、打撃のためのボールを乗せる支柱をいう。

ルール4、ゲームの仕方

以下は、一応の基準を定めたものであり、グラウンドや体育館の大きさに応じて、適宜決めればよい。

4 - 1 試合

- (1) 試合は5回までとする。ただし、3回まで終了していれば試合は成立。
試合時間は30~40分程度とする。(この大会では30分とする)
- (2) 1イニングで3人がアウトになると攻守を交代する。(この試合では、チームの全員(11名)が打撃を完了した時も攻守交代とする⇨特別ルール)たとえ攻撃の途中で攻守を交代する。(ゲームのスピードアップのため)
- (3) すべての選手は、少なくとも2イニングは守備をしなければならない。
(ただし、この大会では適用しない)

4 - 2 打撃

- (1) 打者は、打者席の中で打撃をしなければならない。打者席の外で打つとアウト。
- (2) 打者は、あらかじめ決められた打撃順に打撃をしなければならない。打順間違いはアウト。
(この大会では、ゼッケン番号①②③・・・⑪の順番に打撃するものとする。)